

# 建築の強さとは なにか

— 沖縄から、東京から —

聴講料  
300円  
事前予約不要

2016年 11月26日 土 時間：14:00 ▶ 17:00  
場所：沖縄大学 同窓会館

講師 青木 淳 (建築家) × 真喜志 好一 (建築家)

建築家。東京大学大学院修士課程(建築学)を終了後、磯崎新アトリエに勤務。「面白いことなら何でも」しようと、1991年に青木淳建築計画事務所を設立した。その通り、これまでの作品は住宅、公共建築、一連のルイ・ヴィトンの店舗に代表される商業施設など多岐にわたる。

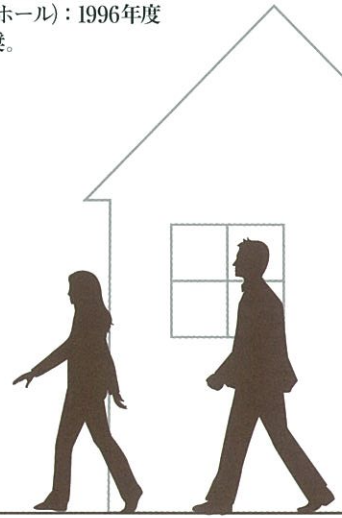
神戸大学大学院修士課程終了後、同大学工学部助手。1972年沖縄に戻り、1976年に(有)建築研究室DIG and PILE (DAP)を設立。沖縄キリスト教短期大学校舎：1991年度日本建築学会作品賞。佐敷町文化センター(シュガーホール)：1996年度日本建築学会作品選奨。

思い描く社会・生活をもっていることが、つくるものの強度となつて現れる、と考へている。なかでも建築は、それが生活という「なかみ」を盛る「うつわ」である以上、生きるということとの一致が強度を生む、と言えよう。

沖縄の建築には、島嶼ならではの、交易・交流による混濁性や多様性がある。そのなかでもたしかな濃度と強度をもっているのが、真喜志さんの建築の特徴だと思う。

生きることと建築との関係、それを踏まえて、沖縄という島嶼の、そして日本という島嶼の、この世界という島嶼のこれからについて、話しあつてみたい。

— コメント：青木淳



■ 問い合わせ先 沖縄大学地域研究所 沖縄県那覇市国場 555 番地  
【TEL】098-832-5599 【FAX】098-832-3220 【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp